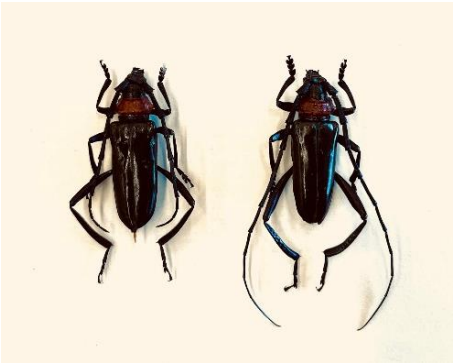
クビアカツヤカミキリ
防除対策マニュアル

（第１版）



（左：メス、右：オス）

京都府

令和６年８月

１　クビアカツヤカミキリについて

クビアカツヤカミキリの幼虫は、サクラやウメ、モモ等の内部を食害し、被害が激しい場合は樹木が枯死するため、被害拡大防止に向けた早期発見・早期防除の徹底が必要です。

（１）クビアカツヤカミキリ（成虫）の特徴

○名前のとおり、胸部（クビ）が赤く、体は黒くツヤがあるカミキリムシ

○体長は、約２～４cm

○掴まれると強い臭いがある液体を排出

○飛翔能力は高く、年間移動距離は２～３km

○車両や鉄道等に付着して長距離を移動することがある

※クビアカツヤカミキリは「特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律」による特定外来生物に指定されており、許可なく「生きたまま持ち運ぶこと」「飼育すること」「他の場所に放すこと」等が禁止されています。発見した場合はその場で駆除してください。

クビアカツヤカミキリの成虫

（２）生態・生活環

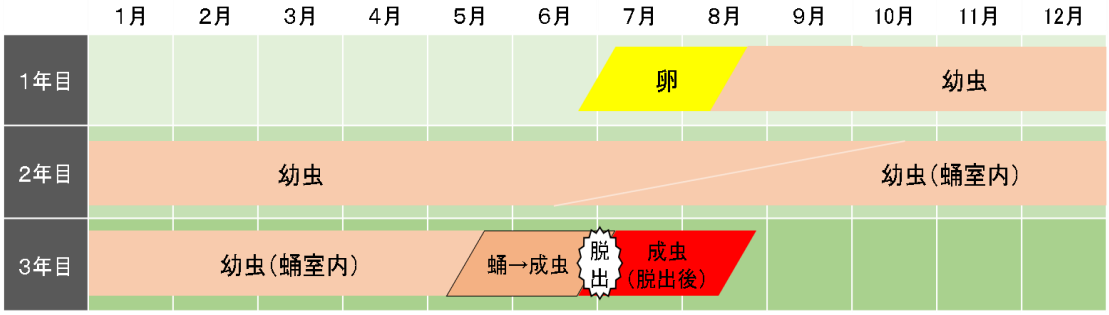
○成虫は、一個体あたり平均 300 個（最大 1,000 個）の卵をサクラ、ウメ、モモ等の樹皮の割れ目や隙間に産卵します。

○卵は 10 日前後で孵化し、幼虫は樹皮下へ食入します。

○幼虫は、樹木の中で２年かけて成長し、蛹になります。

○産卵から２年後の５月から８月頃にかけて成虫となり、幹の外へ脱出します。

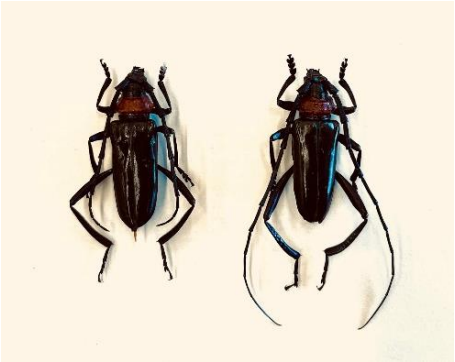
（クビアカツヤカミキリの生活環）



（３）見分け方

○クビアカツヤカミキリ

幼虫：サクラ、ウメ、モモ等のバラ科樹木（生きている木）の内部を食害する。
成虫：体長約２～４cm
オスはメスより触角が長い。
枝や葉は食べない。
さまざまな木の樹液や果汁に集まることがある。



（左：メス、右：オス）

○間違えやすい昆虫

チャイロホソヒラタカミキリ

・大きさ
クビアカツヤカミキリに比べ小型
・胸部（クビの部分）の形
チャイロホソヒラタカミキリは「ビーズ」型
クビアカツヤカミキリは「そろばんの珠」型

ベニカミキリ

・大きさ
クビアカツヤカミキリに比べ小型
・胴体の色
ベニカミキリは胸部（クビの部分）だけでなく、胴体も赤い。

マメハンミョウ

・大きさ
クビアカツヤカミキリに比べ小型
・赤い部分
マメハンミョウは頭部が赤い。

○クビアカツヤカミキリの幼虫が排出するフラス

・幼虫は、サクラ、ウメ、モモの樹幹や根元からミンチ(うどん)状の明るい色のフラス（木くずや糞が混ざったもの）を排出する。
・削り取ったような、大きさの揃った薄い木片を多く含む。

２　防除対策

（１）ネット巻き・捕殺

○羽化した成虫の飛散防止や新たな産卵の防止のため、成虫発生時期（５～８月）には被害木にネットを巻き付けます。

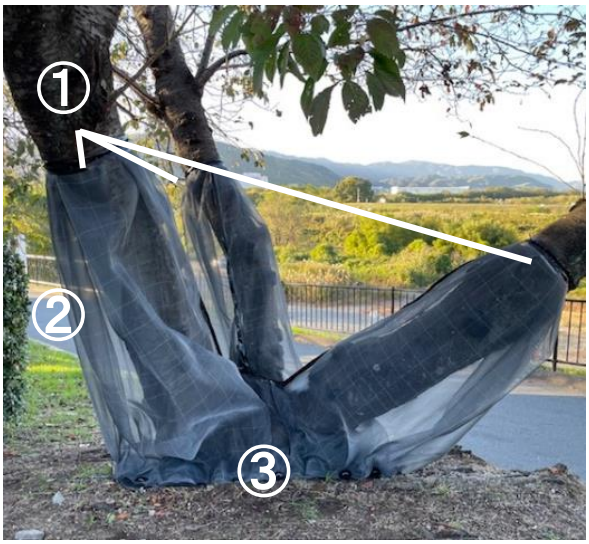
○ネットは、目合い４㎜以下の強度のある防風ネット等を使用します。

○ネット巻きの方法

①約２ｍの高さで、主枝にガンタッカー等で固定し、ひもやテープでしっかりと縛る。

②ネットの噛み切りや、産卵を防止するために、ネットと樹幹が密着しないよう、やや隙間を持たせて巻く。

③ひこばえや雑草を抑制するために、防草シートを敷き、ペグ等で防草シートとネットを地面にしっかり固定する。



・ネットを巻いた後も定期的（２～３日）に見回り、成虫を見つけた場合は捕殺してください。

○フラスが出ている穴（排ふん孔）周辺の樹皮を剥ぎ、針金やドライバー等で幼虫を刺殺または掘り取り、捕殺します。
幼虫を捕殺した後も、新たなフラスの排出がないか、定期的に見回ります。

（２）薬剤処理（処理後は看板や張り紙等で周知してください）

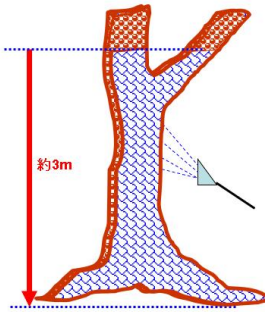
ア　農薬を散布する（薬剤散布）

○成虫を対象として、農薬を散布する方法です。

・根元から約３ｍの高さまで、樹幹や枝にかかるように丁寧に薬剤を散布する。ただし、３ｍ以上の高さにフラスがある場合は、その高さまで散布すること。

・５月から８月までの期間に、10～14 日間隔で２回以上散布する。

・薬剤によっては予防効果も期待できる。



※必ず、最新の登録情報を確認の上、使用基準を遵守して使用してください。

【確認方法】
⇒農薬登録情報提供システム(https://pesticide.maff.go.jp/)　で検索！

イ　排ふん孔に薬剤を注入する（エアゾール剤処理）

○排ふん孔から、樹木内にいる幼虫へ直接薬剤を吹きかけて殺虫する方法です。

・竹ひごや千枚通しで排ふん孔に詰まったフラスを取り除く。

・排ふん孔にノズルを差し込み、薬剤があふれるまで注入する。

・地面も含め、周辺のフラスを取り除き、１週間後に新たなフラス排出の有無を確認する。

・新たなフラスの排出がある場合は、再度処理を行う。

（左）エアゾール薬剤
（右上）排ふん孔周辺のフラスを除去
（右下）排ふん孔から薬剤を注入

ウ　樹幹に孔を空けて薬剤を注入する（樹幹注入）

○樹幹に薬剤を打ち込み、樹木全体に薬剤を行き渡らせて、樹木内にいる幼虫を殺虫する方法です。

・地際付近の樹幹にドリルで孔（注入孔）を空ける。この時、枯死部は避け、必ず生きている部分に孔を空けること。また、樹幹注入部から下は薬剤が効かないため、根にも孔を空ける。

・注入孔に薬液ボトルまたは注入補助器をしっかり挿し、薬液を注入する。

・薬液が樹木内に吸収されたことを確認し、薬液ボトルまたは注入補助器を外した後、専用のパテで注入孔を埋める。

（左上）株本の周囲を測定
（右上）10～15cm 間隔で薬剤を配置
（左下）直径 6mm 程度の穴を 50 度の角度で 6～7cm の深さにドリルで開ける
（右下）薬剤を差込む。30 分～2 時間で終了

（３）被害木の伐採・処分

○被害木の伐採は、確実に幼虫を駆除できるため、被害拡散防止として最も有効な対策です。
○伐採は、成虫の発生の恐れのない 10 月から４月下旬に実施します。
○伐採した被害木は、枯れても成虫が脱出するため放置せず、４月下旬までに焼却または粉砕処分してください。
○焼却、搬出先は、当該市役所や町村役場担当課と相談して決定してください。
○速やかな処分が難しい場合や５月から９月に実施する場合は、ネットやシート等で隙間の無いよう多重巻きで密閉し、保管、搬出してください。
○幼虫は根部にも食入することがあるため、伐採後の切り株も掘り上げ（抜根）し、処分してください。
抜根が難しい場合は、根を防草シート等で覆ってください。（事前に切り株に覆土するとより効果があります。）

３　その他

◇クビアカツヤカミキリの被害拡大防止には、
早期発見・早期対策（駆除）が重要です！

〇クビアカツヤカミキリの成虫やフラス（疑いを含む）を発見したら必ず、以下の連絡先までご連絡をお願いします。

●通報先

〇京都府　総合政策環境部　自然環境保全課
ＴＥＬ：０７５－４１４－４７０６
E-mail：shizen-kankyo@pref.kyoto.lg.jp
又は
最寄りの保健所

※農地・生産園地で発見した場合
〇京都府　農林水産部　農産課
ＴＥＬ：０７５－４１４－４９４５
E-mail：nosan@pref.kyoto.lg.jp
又は
最寄りの農業改良普及センター

・ＷＥＢフォームでの情報提供はこちらから

URL:https://www.shinsei.elg-front.jp/kyoto2/uketsuke/form.do?id=1720745357480

●通報時のお願い

・成虫やフラスの「発見日時・発見場所・写真（撮れれば）・木の種類」の情報をお伝えください。
・成虫を捕まえた場合は、その場で殺処分してください。
※クビアカツヤカミキリを生きたまま持ち運ぶことは、法律で禁止されています。
・死がいを発見した場合も通報してください。

本マニュアルは、栃木県クビアカツヤカミキリ防除対策マニュアルを参考に、樹木医の宗實久義様の協力を得て作成しました。

京都府総合政策環境部自然環境保全課／農林水産部農産課